

小松島港湾・空港整備事務所 平成30年度事業概要

四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所では、平成30年度の主要な事業として、①港湾整備事業、②空港整備事業、③海洋環境整備事業の3つの主要な事業に取り組んでいきます。

◆ 港湾整備事業 ◆

沖洲(外)地区 複合一貫輸送ターミナル整備事業(徳島港区)

平成30年度、徳島小松島港沖洲(外)地区では港内の静穏度確保のために進めている防波堤の整備(150m延伸)において、ケーソンの据え付けに着手する等の進捗を図る予定です。

沖洲(外)地区には四国で唯一の徳島と東京、北九州を結ぶフェリー航路が有り、本事業では水深8.5mの岸壁(耐震)を完成(平成27年3月)させ、現在、大型化した新造フェリー4隻で運行(平成28年11月末から)しています。

フェリーは、今後の物流の課題でもある長距離トラックの運転手不足などもあり、輸送実績は増加(輸送台数は対前年比1.1倍)しています。

さらに、背後では四国横断自動車道も整備されており、平成31年度に徳島JCT～徳島東IC(仮称)間、32年度には徳島東IC(仮称)～津田IC(仮称)までの供用が予定されるなど、今後益々、海陸の物流、人流拠点としての機能強化が図られることとなります。



金磯地区・本港地区 老朽化対策(小松島港区)

古くから天然の良港として栄えた小松島港区では、昭和30～40年代に整備されてきた主要港湾施設の老朽化とその対策が課題となっています。

金磯及び本港地区の岸壁では、主にセメント、化学肥料や原木等が取り扱われています。また、お盆の阿波踊りシーズンを中心に例年クルーズ船が着岸する施設となっています。

金磯地区の水深11m岸壁は、栈橋構造でありブロック(約20m×約20m)数が全部で20ブロックあります。老朽化対策として平成28年度から現地工事に着手し、平成29年度までに5ブロックの施工を完了しました。平成30年度は海側の1ブロックを施工する予定です。

本港地区の水深9m岸壁は、平成30年度から新たに予算計上され、岸壁の調査・設計を行います。

徳島小松島港における今後の港湾施設の老朽化対策については、予防保全計画による効率的、戦略的な維持管理を行い、利用者の安心・安全を確保していきます。

